

特集展示

新たに直筆と確定！

細川幽齋の 新資料

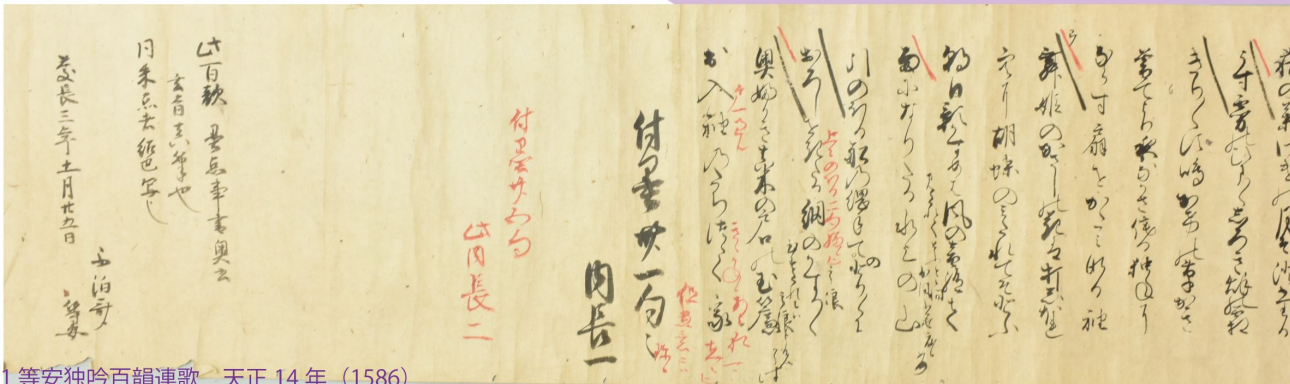
令和3年2月2日(火)～5月23日(日)

大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀の盟友として知られる細川藤孝（幽齋）に関する新資料について、新たな知見を交えて紹介する速報展です。

八幡市の旧家に伝来した資料が、紛れもなく幽齋の直筆であることが新たに明らかになりました。令和元年の当館特別展で初公開し、幽齋による指導の手が加えられていることで注目された連歌資料です。このたび、熊本県立大学の鈴木元教授（国文学）の研究で、この事実が確定されました。

あわせて、未紹介のものを含む関連資料を特集し、細川幽齋と南山城との関係を探ります。

※会期中、資料の展示替えを行います。

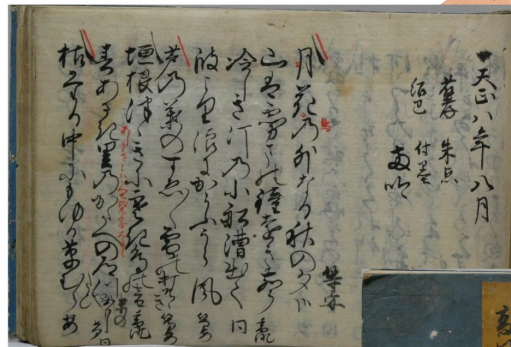


01 等安独吟百韻連歌 天正14年(1586)

石清水八幡宮に仕える神人である橋本等安が詠んだ連歌の作品について、連歌師の里村紹巴と細川幽齋に採点を求めたものです。幽齋の評点（採点とコメント）部分が、今回、本人の直筆であることが新たに確認されました。

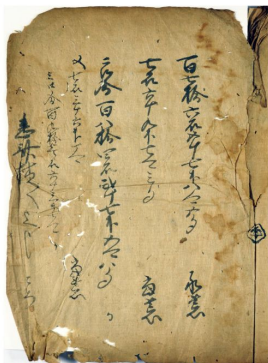
02 連歌集「高好連歌」

橋本等安が自ら参加した連歌を集めた作品集です。01の等安独吟百韻連歌が詠まれた年月日や幽齋に採点を依頼した事情などの貴重な情報が明記されています。天正8年にも細川藤孝の採点を受けていること、天正11年には豊臣秀吉の御衆衆として知られる大村由己とも連歌を行っていることなども注目されます。



03 山城山田東郷永川成帳 慶長14年(1609)

細川幽齋は、関ヶ原の戦いが終わり嫡男の忠興が丹後から九州に転封された後に、徳川家康から相楽郡山田村（現・精華町）を新たな知行地として与えられます。03は近年新たに確認された山田村に関する土地台帳で、浸水で不作となった田地の情報を、領主である「幽齋様」に報告する旨の奥書があります。



※01～03は個人蔵の資料です。

※本展の図録はありません。令和元年度特別展図録『光秀と幽齋～花開く武将文化～』を参照ください。

重要文化財 絹本着色細川幽齋像（部分）
天授庵蔵